



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

平成30年度昭和大学入学式が、去る4月12日(木)午前10時より明治神宮記念館に於いて厳粛に執り行われました。当日は晴天に恵まれ、明治神宮の杜は常緑樹に混じって楓や櫟の新緑が爽やかでした。今年度の新生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて598名(編入生を含む)で、会場は新生とご家族、昭和大学教育職員等で二階席まで埋め尽くされました。



式典は昭和大学管弦楽団によるヨハン・シュトラウス2世作曲「こうもり」の演奏で厳粛に開始しました。指揮は歯学部11回生の大矢先生が務めました。役員が登壇し、今年から歯学研究科長に就任した高見教授をはじめ、各研究科長も登壇しました。

小出良平学長から、大学の歴史と現況の紹介があり、全寮制と4学部8附属病院の恵まれた環境のなかで医療人として成長してほしいとの告辞がありました。小口勝司理事長からは、昭和大学が医療人教育として誇るべきこととして、初年次全寮教育、学部連携教育、臨床教員制度ほかの手厚い教育システムがあることが紹介され、新生を昭和大学のファミリーとして歓迎するとの祝辞がありました。

新生代表の医学部横江美紅さんのリードで、新生ならびに昭和大学関係者全員で昭和大学宣言を唱和しました。役員降壇後、昭和大学管弦楽団の演奏で、グリークラブとアカペラ部のリードで校歌を斉唱しました。

新生歓迎行事実行委員の大塚君(医学部)と森君(歯学部)によるユーモアを交えた歓迎の挨拶に引き続き、メディカル・オールスターズによる歓迎の演奏があり、出席者一同聞き惚れました。最後に恒例の応援指導部による新生歓迎演武とエールがあり熱気のなか歓迎プログラムを終了しました。

引き続き学校法人昭和大学の内田 樹理事による特別講演があり、医療の本質を考えると医療人として今日から生まれ変わるように、さらに富士吉田校舎の1年間でゆとりある時間に一人で自然と向き合い観察、仮説、検証の工程で成長してほしいと激励がありました。

12時に式典を閉会し、休憩後新生は家族に見送られ、バスに分乗して、富士吉田校舎に向かいました。



超高齢社会に突入した我が国では、高齢者の長寿健康に貢献できる資質の高い歯科医師を育成することが求められています。本学はこれに対応するために、組織の改変や教育改革を進めてきましたが、本学の最大の特徴である富士吉田校舎での全寮制によるチーム医療教育はその出発点として非常に重要です。新生が、学友との共同生活を通じて富士吉田校舎で多くの経験を積んで、大いに成長することを期待しています。



## 大学院歯学研究科長就任のご挨拶

大学院歯学研究科長 高見 正道

平成30年4月1日より歯学研究科長を拝命いたしました。若輩ではございますが、歯学研究科のさらなる発展のため粉骨砕身の覚悟で取組む所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



本学ではこれまで学部長が研究科長を兼任しておりましたが、本年度より学部長と研究科長を分離することになりました。全国的に大学院改革が進められる中、今回の研究科長の新たな配置は学長をトップとした研究基盤強化のための布石の1つと捉え、医系総合大学の特色である学際的な組織力を高めていきたいと存じます。

本学歯学研究科は昭和58年に設置され、昭和62年の第1回修了生から35年間にわたって多くの博士(歯学)を輩出してきました。今年度は、定員を超える30名の新生が入学し、うち7名が学外からの志願者であることから、本研究科が広く認知されていることが伺えます。しかし、少子化や歯科を取巻く情勢を鑑みると楽観はできず、Multi Doctor Program など学部学生に対する啓蒙を含め、学内外の若者に対していかに訴求するかが重要と考えています。

大学院教育において私たち教育職員は、在籍する大学院生を人間性豊かな研究・教育者ならびに科学の目と高度なスキルを併せ持つ臨床家に成長させなければなりません。そのためには、大学院生が研究を通じて様々な試練に直面し、それを乗り越えようとする際に、教育職員が親身になって支援することが大切です。こうして手塩にかけた大学院生が将来、歯科医療や科学、そして昭和大学の発展を牽引する人材として活躍することが国民の健康長寿への貢献に繋がると信じ、大学院教育環境の整備にも精力的に取り組みたいです。

これからの大学院運営にあたり皆様には多大なご迷惑をおかけするかと存じますが、多くのご支援を賜われますよう、心よりお願い申し上げます。

## 大学院入学式が挙行されました

大学院歯学研究科長 高見 正道

4月7日(土曜日)午前10時より、昭和大学大学院入学式が上條講堂にて行われました。歯学研究科に入学する30名(一般22名、社会人8名)は全員出席し、緊張した面持ちで式に臨みました。そのうち7名は愛知学院大(2名)、日本大、長崎大、大阪歯科大、明海大、岩手医大(各1名)など昭和大学以外からの入学者で、全国各地から本学を志願する人が増加する傾向にあります。



小出学長からは「大学院は学習から学問への転換であり、未知なるものを研究しそれを解き明かすのは容易ではない」、小口理事長からは「学位とは単に取ればよいというものではなく、新しいものを創り出す訓練を積んだ証である」との訓示がありました。続いて、今年度より就任した各研究科長の挨拶があり、昭和大学宣言を唱和して閉会しました。式の後、各研究科に分かれてオリエンテーションが実施され、大学院運営委員長の桑田教授は「困ったことがあれば1人で思い込まず、いつでも相談しに来て欲しい」など、大学院生活に対する助言を述べ、新生の活躍に期待が高まる1日となりました。



## 昭和大学入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学平成30年度入職式が、3月31日午前10時から明治神宮会館で開催されました。今年の東京は3月中旬に桜が満開になり、当日は晴天のもと桜に加えて木々の新緑がまぶしい日でした。本年度採用された新入職員は、教育職員283名（歯学部ポスドク1名、歯学部助教7名、助教歯科27名を含む）、研修医（医学部）101名、研修医（歯学部）75名、事務職員47名、看護師・助産師380名、薬剤師レジデント23名、その他の医療技術系職員64名（歯科衛生士7名を含む）の合計975名でした。会場は二階席も所属長や父母で埋め尽くされました。



式典は昭和大学管弦楽団の演奏で厳かに開式しました。法人役員が登壇し、最初に小口勝司理事長から「本学は社会に貢献するすぐれた医療人を育成する大学なので、全ての新入職員が職種を問わず医療人として自己研鑽につとめ医療を通じて社会に貢献するとともに、学生や後進の教育にも責任を持って欲しい」と訓示がありました。引き続き小出良平学長から、本大学の歴史と特徴が紹介され、至誠一貫と昭和大学宣言を常に念頭において勤務するようとの挨拶がありました。小口理事長から新入職員代表の太田耕輔さん（看護師）に辞令が交付され、大田さんが新入職員宣誓をしました。村田佳織さん（事務職員）のリードで参列者全員が昭和大学宣言を唱和し、引き続き校歌を斉唱しました。閉式の辞のあとに、今年度は新入職員を歓迎して、洗足学園音楽大学ミュージカルコースの学生と引率教員によるミュージカル



のパフォーマンスがありました。その後、昭和大学の名前が入った入職記念のタオルを手元で掲げながら全員で記念撮影をしました。

新入職員におかれましては、それぞれの職場で、同僚・上司の指導のもと、本学の発展のために鋭意努力されますようお願い申し上げます。



## 平成30年度科学研究費補助金交付内定状況

研究活動委員会 上條 竜太郎

去る4月1日、文部科学省と日本学術振興会は、平成30年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。歯学部全体の交付内定状況（4月20日把握分、研究活動スタート支援ならびに挑戦的萌芽研究新規分を除く）は下表の通りで、平成29年度と比較して交付内定件数は新規で8件、継続で2件減少したものの、交付内定金額の総額は昨年同様、1億円を超えました。なお、ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究支援課にお問い合わせください。

	平成29年度			平成30年度		
	採択件数		内定金額	採択件数		内定金額
	新規	継続		新規	継続	
基盤研究A	0	0	0	0	0	
基盤研究B	3	2	23,300,000	0	3	14,600,000
基盤研究C	14	31	48,500,000	18	26	48,500,000
若手研究	24	15	50,300,000	15	23	44,500,000
研究活動スタート支援	4	5	5,500,000	申請中	3	4,000,000
挑戦的萌芽研究	3	7	6,700,000	審査中	3	2,500,000
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	0	2,400,000	1	0	2,500,000
合計	49	60	136,700,000	34	58	116,600,000

## 昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

石崎晶子講師（口腔衛生学講座）  
 壇辻昌典助教（口腔生理学講座）  
 井上 知助教（口腔解剖学講座）  
 行森 茜助教（口腔病理学講座）

## 至誠塾入塾式が開催されました

至誠塾副塾長 宮崎 隆

去る4月4日(水)午後6時から、旗の台校舎1号館5階カンファレンスルームにおいて、平成30年度至誠塾の入塾式が開催されました。今年の新入塾生は記念すべき10回生で、教育職員、事務職員、および看護師ほかの医療職に従事している18名の新入塾生を迎えました。歯学部関係では、小児成育歯科学講座の杉山智美講師が入塾しました。

至誠塾は小口勝司理事長(塾長)の発案で、将来の学校法人のリーダー育成のために設置されました。2年間のコースで、1年目は学務、病院、法人の管理運営全般に亘り、毎週水曜日に講義とグループ討論を通じて、小口塾長、副塾長(小出学長ほか)ならびに特別講師の先生がたから直接指導を受けます。式典では小口塾長から、これまで至誠塾を開催してきた目的について、大学と学校法人の業務の違いを学習して次世代の学校法人の運営に携わる人材を育成することなので多くのことを学び議論して欲しいと挨拶がありました。2年目は各自の研究テーマを決めて1年間でプロダクトをまとめます。すでに多くの修了生が本学の各職場で活躍しています。

入塾式終了後、会場を喫茶アミに移し、2年生に在籍の9回生を交えて歓迎会を開催し、懇親を深めました。毎週水曜日の夜に、日常業務のあとに慣れないテーマを学習するのは大変ですが、最後まで頑張つて欲しいと思います。



## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

5月12日(土):旗の台校舎公開講座  
5月27日(日):学祖祭  
6月 9日(土):父兄会総会

## D6選択実習の充実を図ります

教育委員長 美島 健二

本年度より新しいD6選択実習が実施されています。昨年まで選択実習は、3期制で構成されており各2週間、2期の選択で計4週間の履修となっていました。本年度は5年生で実施されていた4学部連携病棟実習が6年生で実施されることもあり、これまでの3期制から各3週間、2期制の計6週間の履修となりました。実習先には、学内はもとより学外の大学病院、総合病院、歯科診療所ならびに海外の大学歯学部があります。6年生における選択実習の持つ意義は、5年生での臨床実習をさらに発展させ、より実践的かつ高度の先進医療に触れることにあります。そこで本年度は臨床実習により重きを置くため、まず、学内実習に変更を加えました。すなわち、これまで基礎講座・部門単独での選択が可能でしたが、本年度からは臨床講座・部門が主体となり関連する基礎講座・部門と共同したコースを設定しました。このことにより、臨床的事項のみならず関連する基礎的事項の確認も同時に行う事が可能となりました。また、特筆すべき点としては、海外選択実習の充実が挙げられます。本年度は12名の学生が海外の歯学部で実習を行いました。その内訳は南カリフォルニア大学(アメリカ)4名、ブリッティッシュコロンビア大学(カナダ)3名、慶熙大学校(韓国)2名、台北医科大学(台湾)2名、トリサクティエ大学(インドネシア)1名、と多数の学生が海外での実習に参加しています。継続的にD6選択実習の充実化を図り社会のニーズに応えることのできる歯科医師を育成していきたいと考えます。

## 受賞

広報委員長 中村 雅典

・第9回日本デジタル歯科学会学術大会  
優秀ポスター発表賞  
佐久間優弥(歯科矯正学講座)

## 編集後記

歯科薬理学講座 坂井 信裕

例年よりも桜の開花が早いと思っていたら、春を通り越してもう夏日。季節の変化で体調を崩されぬようお気をつけ下さい。最後に、年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿下さいました諸先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。